

郷土の歴史文化を後世に引き継ぐとともに、地域への理解と関心を深める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき高知県の歴史、考古、民俗の各分野の資料を収集し、適切に保存する

評価項目

- (1) 本県の歴史文化を後世に伝えるうえで必要な資料を収集する
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

高知県の特色あるテーマである長宗我部氏や四国遍路等の資料収集を実施した。

〈寄贈資料〉

考古資料: 四万十町(旧窪川町)出土の弥生時代後期の銅矛 5 口

歴史資料: 恒光家資料、吉村淑甫氏寄贈資料(今村楽書簡、奥宮正路(暁峰)書)、土方久元書、戦時下の葉書(軍事郵便)、抑留期の歌謡集

〈寄託資料〉

歴史資料: 中世資料を含む芦田家文書・伝蘭奢侍剥片

〈購入資料〉

歴史資料: 「土佐烈士遺蹟絵葉書」7枚、「四国八拾八所霊場納経」1冊、「弘法大師御旧跡寫八十八ヶ所略図」1枚

民俗資料については、平成 26 年度以前の収集資料の一部において、整理、分類が滞っているため、館としての民俗資料分類体系表を作成し、それを基に整理、分類の作業に取り組んだ。

長期間の資料(作品)の展示は、資料の劣化等に繋がることから、展示替えや複製品の製作、展示環境(温室湿度・照明)の監視、調整などを継続的に実施し、修復にも取り組み資料の保存に努めた。

〈保存処理修復、複製品の製作〉

- ・居徳遺跡出土縦杵1点の修復、兜の保存処理と部分修復、西畑人形頭部2頭の保存修復
- ・軸装された資料の軸心や紐の付け替え、刀剣の研磨2口と拵の再調整、刀剣の手入れの実施
- ・居徳遺跡土偶片など3点の複製、足利義満寄進状写本など17点の書状などの複製
- ・有形登録文化財旧味元家住宅主屋は、年6回いろりに火を入れ、縁の修理を行った。

〈展示環境等〉

- ・展示室環境は、夏期 24 度 60%、冬期は 24 度 55%の保存環境に努めた。
- ・収蔵庫資料(作品)は、資料に適した温湿度を保持するよう収蔵庫の温度は22度、湿度 56%で、24 時間管理した。
- ・新資料収蔵時は、他の資料が虫害やカビの影響がないように、文化財用の燻蒸ガスにおいて燻蒸している。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代後期の資料や芦田家文書など、後世に引き継ぐべき文化財の保護・保存に努めたことが認められる。 ・民俗資料の未整理、未分類資料の問題については、計画的に整理、分類を行う取り組みを継続している。 ・展示・収蔵環境については、公開承認施設として適切な管理を行っており、収蔵資料の修復や複製品作成等を計画的に行い、資料の維持管理に努めたと認められる。

【ご意見等】

要求水準－調査・研究

収蔵資料の調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目

- (1) 様々な歴史分野の中から題材を絞り、テーマ性を持った調査研究を進める
- (2) 長宗我部氏関係の資料の研究を進め、展示などを通じて広く公開する

状況説明

〈考古分野の調査研究〉

- ・高知県が実施している四国遍路と遍路道の調査で清瀧寺の調査を実施。特に未公開の「真如親王伝承五輪塔」の学術調査を実施し、その成果の一部を『高知県「四国八十八箇所霊場と遍路道」総合調査報告書 醫王山鏡智院清瀧寺』の考察編に掲載した。
- ・高知市教育委員会による土佐へんろ道の調査を実施し、『土佐へんろ道竹林道・禪師峰寺道(五台山)』の報告書に遍路道にある「五台山の題目式笠塔婆について」を掲載し、併せてへんろ道の石造物についても報告、掲載した。

〈歴史分野の調査研究〉

- ・秦コレクション中の長宗我部信親発給文書の写本について調査・研究を行い新史料であることが明らかになり、その成果を『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』第 21 号に掲載した。
- ・土佐藩の破城の調査を行った成果の一部を『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』第 21 号に掲載した。
- ・「竹村家資料」再調査し、第2回移民船旅順丸の航海日誌を翻刻し、『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』第 21 号に掲載した。

〈民俗分野の調査研究〉

- ・いざなぎ流について、これまでの研究成果を、企画展の開催につなげるとともに、「いざなぎ流「神楽」考」を『神楽と祭文の中世』へ掲載した。

〈研究成果の公開〉

- ・長宗我部氏の研究の成果を県民に公開する方法として講座やセミナーを実施、また高等学校でも授業を担当した。
 - 日本技術士会四国本部第 43 回 CPD セミナー「長宗我部元親とライバルたち」
 - 第 11 回土佐観光ボランティア養成講座「長宗我部元親とその時代」
 - 高知ライオンズクラブ例会「長宗我部氏について」
 - 高知県高坂学園生涯老人大学「長宗我部元親の盛衰」など
- ・「志国高知幕末維新博」に関連して平成2年に設置した国史跡・岡豊城跡の遺跡解説パネル、案内図の全面リニューアルをし、近年の考古学成果を取り入れ、一部解説文も書き換えた。写真もカラー写真を取り入れた。併せて長宗我部展示室の岡豊城跡のコーナーに城の縄張り図を作成し、展示した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・館のテーマに沿った調査研究を実施し、成果を発表していることが認められる。・講座や授業等を通して、長宗我部氏の研究成果をわかりやすく解説した。・国史跡・岡豊城跡の野外展示の解説パネルなどをリニューアルしたことが認められる。

【ご意見等】

要求水準－展示・公開

これまでの歴史の積み重ねのうえに現在の高知県があることを伝え、県民の郷土への誇りと愛着を育む

評価項目

- (1) 公開承認施設として、貴重な資料の公開など魅力ある企画展示を行い、5年間で 15 万人以上の観覧者を目指す
- (2) 来館者一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや展示解説など、郷土の歴史や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

状況説明

企画展・特別展に合わせて講演会・講座・公演・ミュージアムトークなどを実施したが、入館者は 23,725 人となり、前年度の 28,989 人を下回った。

<企画展入館者実績>

「いざなぎ流の里・物部－神々と精霊の棲むムラー」 4/29～ 6/26 59 日間 6,515 人
 「前田博史天然写真展 樫史」 7/15～ 9/19 67 日間 5,832 人
 「発掘された日本列島 2016－新発見考古速報－」 11/12～12/18 37 日間 2,223 人
 「幕末の土佐－書跡にみる人物像－」 1/29～5/10 102 日間(28 年度は 62 日間) 3,818 人

<通常展入館者実績>

入館者数 5,337 人

レファレンスサービスとして、受付に高知県の地名事典などを配置し、簡単なレファレンスや史跡案内などに対応できる体制を組んでいる。

電話やメールなどの実績は、考古 8 件・対応時間 3 時間、歴史 37 件・21 時間、民俗 74 件・41 時間、美術工芸 3 件・2.5 時間であった。

学術研究を目的とした資料の撮影・調査閲覧実績は 50 件で、152 時間であった。(考古分野では考古学史・市史関係の閲覧、歴史では長宗我部氏関係・ブラジル移民関係・戦時資料、民俗いざなぎ流・民具・年中行事などの調査が多い。)

ミュージアムトークの開催実績

「いざなぎ流の里・物部－神々と精霊の棲むムラー」 4 回
 「前田博史天然写真展 樫史」 3 回
 「発掘された日本列島 2016－新発見考古速報－」 2 回
 「幕末の土佐－書跡にみる人物像－」 2 回

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・いざなぎ流の企画展では、魅力と特色ある本県の文化を紹介し、県内外の多くの方の来館があった。「発掘された日本列島 2016－新発見考古速報－」では、公開承認施設の利点を生かし、貴重な発掘資料を安心して公開することができたと認められる。しかしながら、観覧者数は前年度を下回り、また、28 年度の目標観覧者数 30,000 人を大きく下回った。 ・県立の総合歴史博物館として、様々な質問や調査要請に対して丁寧に対応していることが認められる。

【ご意見等】

・歴史民俗資料館は、静かな環境でじっくり展示を見ることのできる施設であり、そういった個性を大事にしてほしい。

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目

- (1) 学校との連携による出前授業や校外学習などに計画的に取り組み、子どもたちの歴史や文化に触れる機会を充実させる
- (2) 県民が郷土の歴史や文化に親しむことができる講座などを開催する

状況説明

<企画展関係教育プログラム(ワクワクワーク)の実績 合計 357 人 (平成 27 年度 265 人)>

企画展「いざなぎ流の里・物部一神々と精霊の棲むムラー」

「御幣きり体験」 参加者 25 人(定員 20 人)見学者 41 人

「土佐民話の家 28」 参加者 102 人

特別展「発掘された日本列島 2016－新発見考古速報－」

「ミニチュア鏡をつくってみよう」 参加者 7 人(定員 15 人)

その他

「琥珀で勾玉をつくろう」 参加者 57 人(予定 1 回)3 回実施

「コマをまわしてみよう」 参加者 100 人

「土佐和紙漆張り子 とりの絵付け」 参加者 25 人

<学校教育関係の取組>

・体験学習:勾玉作り(7校)、火おこし(4校)、甲冑体験(6校)、いろり体験(3校)、昔あそび(2校)

・来館学校関係 44 校 2,350 人:総合的な学習(1校)、学校授業と連携したポイント解説(7校)、展示見学・通史解説・民家見学(7校)、展示見学と長宗我部・企画展解説(6校)、展示見学とビデオ学習(19校)、岡豊山見学(4校)

出張授業:小学校4校(児童クラブを含む) 219 人、高等学校:7校 28 人

学校法人龍馬学園 6 回 108 人

・職場体験学習:4校 14 人

・バス送迎授業:1校

・大学との連携:博物館実習 3校(4人)を7日間受け入れた。

・国立大学で博物館関連授業を非常勤講師として実施した。

<講演会、公演、講座、ミュージアムミュージアムトーク>

「いざなぎ流の里・物部一神々と精霊の棲むムラー」

国際日本文化研究センター小松和彦氏他「研究フォーラムいざなぎ流の呪術と神楽」参加者 112 人

物部民謡の会「はっさん」参加者 100 人

いざなぎ流神楽保存会「いざなぎ流神楽」参加者 180 人

ミュージアムトーク 4 回

「前田博史天然写真展 樵史」

前日本樹木医会副会長 濱田吉成氏「樹の声を聴く、命を紡ぐ」参加者 105 人

写真家前田博史氏「前田博史氏写真教室」定員 20 人

「発掘された日本列島 2016－新発見考古速報－」

(公財)福島県文化振興財団遺跡調査部調査課長 吉田秀享氏

「福島県相双地域の古代製鉄と東日本大震災の復興調査」参加者 23 人

文化庁文化財部記念物課埋蔵文化財部門文部技官 森先一貴氏 参加者 44 人

高知大学講師 宮里修氏「淡路島発見の銅鐸の謎」参加者 41 人

「幕末の土佐－書跡にみる人物像－」

高知県立坂本龍馬記念館三浦夏樹氏「筆跡からみる龍馬」参加者 55 人

中岡慎太郎館学芸員 豊田満広氏「筆跡からみる慎太郎」参加者 47 人

<職員の派遣>

高知市いきいきセカンドライフ講座
土佐観光ボランティア要請講座
高知ライオンズクラブ等の講演

<子どもたち等に来館してもらう取組>

・季節のイベント開催

れきみんの日(館内クイズラリー、土佐弁民話紙芝居など) 790人

岡豊山の夏祭り(ものづくり教室、怪談、お化け屋敷、縁日屋台など) 806人

れきみんのお正月(お年玉くじ引き、ものづくり教室、昔遊びなど) 231人

・クイズラリーの実施及び参加

長宗我部ラリー 550人

南国フォトロゲイニング 96人

評価	理由
A	・企画展関連の教育プログラムや体験学習、出張授業や職場体験学習の受け入れなど、子どもたちが歴史や文化に触れる機会を充実させたと認められる。 ・講演会、講座・講演などを通して、展示への理解と地域文化への理解を進めることができたと認められる。

【ご意見等】

・子ども向けパンフレット等の作成などにも力を入れてほしい。

評価項目

土佐の歴史に関する積極的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状況説明

(1)紙媒体・ネットを通じた広報

- ・館のリーフレットや『催し物ご案内』を観光案内所、旅館、ホテル、コンビニなどへ配布し、県民や観光客の目に触れるようにしている。
- ・新聞やテレビだけではなく、HPなどネットを活用した広報もしている。
- ・企画展開催前に報道機関に情報発信し、企画展の取材につなげている。
- ・特別展では、新聞で特集記事を組み、広報に努めた。

(2)イベント等における広報活動

- ・大分県の大野川合戦祭りに南国市観光協会とともに出店しグッズや館の広報をした。
- ・第3回ご当地キャラまつり in 須崎に出店し、館のPRをした。

(3)学芸員による広報活動

- ・県外の学芸員や研究者と交流し、館の展示情報を直接伝えるなどをしている。
- ・学術雑誌などへ館職員名が掲載されるなど研究面でも努力している。
- ・直接企業に出向き、館のチラシなどを配布し、来館につなげている。

評価	理由
B	積極的な情報発信により、県内外に館の魅力を広めたと認められる。 入館者に繋がるよう、魅力的な広報を期待する。

【ご意見等】

評価項目

- (1) 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る
- (2) 岡豊山周辺を歴史的な好奇心を高めるゾーンとして位置づけ、関係機関と連携した取り組みを通じて地域の活性化に貢献する

状況説明

四国地区博物館協議会において、副会長館として総会（徳島県立博物館で開催）に出席し、「四国における博物館ネットワーク」について他館との討議に参加した。

＜他館への支援＞

- ・横山隆一 記念まんが記念館の企画展「フクちゃん誕生 80 年記念「フクちゃんとおそぼう！～ペーパーアートとおもちゃで“昭和”～」展への写真・資料展示協力
- ・高知県立高知城歴史博物館の開館にあたり、通常展で展示される資料パネルなどの製作に全面的に協力した。
- ・京都国立博物館、長崎県立文化博物館で開催された特別展覧会「没後 150 年坂本龍馬」への資料を貸出等に協力した。
- ・「発掘された日本列島 2016 新発見考古速報展」の開催に伴い、地域展「田村遺跡群の青銅器」を開催した。

＜長宗我部氏、国史跡・岡豊城跡の文化資源の活用＞

- ・長宗我部氏の資料の保存を図りながら、長宗我部展示室の展示内容が充実するように複製品を製作、保存処理も行うなど展示替えができるようにし、県内外の歴史ファンに親しめる展示にしている。
- ・「志国高知幕末維新博」対応として城跡からの眺望を楽しんでいただくために詰に櫓を上げ、これに伴い詳細な岡豊城跡案内パンフレット（「ふらり散策綴り」）を新たに作成するとともに、岡豊城跡の案内解説版をリニューアルした。

＜国史跡・岡豊城跡を活かした地域住民との連携＞

- ・「記念シンポジウム基調講演 中世城館の保存と整備・活用」を実施、地域住民の方も参加されて発言されるなど地域との取組を紹介した。
- ・「岡豊山さくらまつり（土佐の食1グランプリ）」、「長宗我部フェス」、「れきみんの日」、「岡豊山の夏祭り」を土佐まほろば地区振興協議会、地域ボランティア、岡豊地区各自治会、地域女性グループ、カルチャー・サポーターの協力も得て実施した。
- ・土佐まほろば地区振興協議会による「まほろばウォーク」を実施した。

＜“いざなぎ流”誇れる文化、物部地域との連携＞

- ・企画展「いざなぎ流の里・物部一神々と精霊の棲むムラ」を開催
- ・「いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会」との共催
- ・第 5 回「物部大柘高校民俗資料一般公開」を実施

＜長宗我部ゆかりの地との連携＞

- ・5月に開催する「長宗我部フェス」の翌日に、高知市の若宮八幡宮で「長宗我部まつり」が開催されることから、両イベント間で連携し、共通のチラシを作成するなど効果的な PR に努めた。「長宗我部まつり」の当日には、当館から甲冑を貸し出し、館のマスコットキャラクター「もとちか君」が会場で館をアピールした。

評価	理由
B	他館への展示協力や指導、共催展示により県民サービスの向上に努めたことが認められる。 「長宗我部」、「いざなぎ流」など特色あるテーマを活かし、各種団体等との連携・協力をし、地域の活性化に貢献したと認められる。

【ご意見等】

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をととして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

<社会的責任>

・個人情報の管理については、(公財)高知県文化財団の個人情報保護規定により適正に運用している。

<建物や設備の管理>

- ・展示室内の空調等の機械設備は業者委託し毎日点検。
- ・清掃は業者に委託し館・内外の清掃を実施。
- ・館内外警備は24時間警備を委託し、毎朝警備報告を提出させている。

<危機管理>

- ・警備・空調委託業者と自衛消防団を組織。「風水害等の配備基準及び職員体制」により連携対応している。台風前は職員による点検を実施。
- ・年1回消防署の立会のもと避難訓練・消防訓練を実施し、年2回職員による消防点検も実施。
- ・盗難等危機管理対策として、エントランス・展示室内にカメラを設置し、警備室・総務事業課で監視できる体制を取っている。
- ・県内唯一の燻蒸庫をもつ博物館であるため燻蒸庫定期点検を実施。
- ・文化財の防犯については、文化庁が主催する「国宝・重要文化財防災・防犯対策研修会」に毎年派遣し最新の防犯体制の情報を取得している。

評価	理由
B	概ね適正な管理運営が遂行されたと認められる。

【ご意見等】

評価項目	
(2)利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・来館者アンケートや電話等によりいただいた声は、情報共有と業務改善に活かしている。 ・学芸員は専門性の向上のため、日々の資料の取扱いについて研鑽をしている。各分野の学芸員とも、県内外で調査・研究、学会等に参加し、報告書の執筆や論文等発表を行っている。また、学芸補助員と解説員が、外国語の研修に参加した。 ・文化庁主催の公開承認施設会議や国宝、重要文化財(美術工芸品)の防災・防犯対策の研修、普通救命講習(全職員)、公務員倫理職場研修、人権問題職場研修を実施 ・岡豊山への来場者がゲートしまる時間を過ぎても車に戻らない時は、警備員と共に確認作業に入り、警察への連絡もする。28年度は、救命2名。

評価	理由
B	概ね適正な管理運営が遂行されたと認められる。

【ご意見等】

評価項目		
(3)利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・観覧者は目標 30,000 人に対し、実績 23,725 人と目標を下回った。 ・岡豊山歴史公園への来場者は 23,832 人 ・学校来館数は 44 校で 2,350 人であった。

評価	理由
C	国史跡岡豊城跡の散策や館外イベントに訪れる方は少しずつ増加しているほか、多目的ホールの利用頻度も高くなってきており、学校来館者数・人数は増加しているものの、観覧者は目標に対し 79%の実績であり、企画展の広報を工夫するなど、今後の目標達成に向けた努力を期待する。

【ご意見等】

評価項目		
(4) 収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・入館者減に伴い料金収入は、4,347 千円(平成 27 年度 5,667 千円)で、対前年度比 78%となった。 ・経費の中で費用のかかる電気料については、不要部分の消灯・間引き・LED化、バックヤードの消灯などに努めるとともに、加湿器ノズル修繕にともない小量であるが水の削減にも努めた。警備室のエアコンの取替により電気代の削減に努めた。 ・グッズ等販売では、県内外のイベントにも参加し、図録やグッズ等を販売に努力し、併せて企画展広報も実施した。

評価	理由
B	入館者減により利用料金は減収となったものの、経費の削減やグッズ等の販売に努めたことが認められる。

【ご意見等】

評 価	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携による企画展「いざなぎ流の里・物部」では、いざなぎ流神楽など地域文化伝承に努め、「発掘された日本列島 2016」では、自然災害をテーマに取り入れ、独立行政法人海洋研究開発機構 高知コア研究所との連携により、初めての県内の地震・津波碑の3Dモデルを公開、注目されるなど、多様なテーマ設定の企画展を開催した。 ・志国高知幕末維新博の関連企画「幕末の土佐―書跡に見る人物像―」では、吉田東洋が安政の南海大地震の猛威に触れ筆をとった漢詩がマスコミに取り上げられるなど、内容的には、本県の特徴ある地域文化の紹介や、喫緊の課題である南海地震にからめるなど、工夫を凝らして実施した。 ・しかしながら、観覧者数は、前年度及び 28 年度目標人数を大きく下回ったことから、観覧者増の取り組みに期待する。 ・教育普及関連では、新たに高等学校で連続した授業を受け持ち、専門学校において将来の観光業務にかかわる人たちに、土佐の歴史観光資源について紹介するなど、新たな展開が見られた。 ・施設の老朽化が進む中で、こまめに点検を実施し、シャッターや加湿器ノズルの修繕、屋外トイレへの柵の設置など、迅速に対応した。 ・懸案事項の民俗資料整理については、整理・分類作業を継続した。 ・そのほかの管理運営については、概ね要求水準通りであったと認められる。 <p>以上のことから、概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

【ご意見等】

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。